

スキューバダイビング

ダイビングの安全面からは、眼鏡よりコンタクトレンズが推奨されています。コンタクトレンズを装着していても、ダイビングの時の方が日常の状態と比べてより多くの酸素が角膜に供給されています。ダイバーが深い所から水面に向かって浮上する時に、窒素ガスがハードコンタクトレンズ下に生じて角膜障害をおこすことがあります。ソフトコンタクトレンズ装着ではこうした問題はおきません。しかし、ほとんどの人にとってはレクリエーションとしてのダイビングであり、減圧を必要とされるような潜水には従事しませんので、ハードコンタクトレンズが必ずしも不適切ということではありません。

スイミング

過去に、水球選手のソフトコンタクトレンズ装着状況が調査され、国内上位チームにおいては22%、ワールドカップに出場した8ヶ国のチームにおいては28%の選手が競技中に使用していました。また実際に、ソフトコンタクトレンズを装着した状態でプールを遊泳させてその影響を調べたところ、装着によって視機能が良好に保たれるだけでなく、装着眼の方が塩素による角結膜上皮障害が少なくその保護効果も示されています。しかし、装着眼では角膜厚増加率が高く、何らかの障害が生じている可能性もあり、また海水や塩素消毒された水でも感染の危険があることから、コンタクトレンズは使用しないほうが無難です。

コンタクトレンズを使用するときの注意

スキューバダイビングやスイミングの時に、やむをえずコンタクトレンズを装着する場合には、使い捨てコンタクトレンズを使用し、遊泳後は必ずレンズを捨て、洗眼してから新しいレンズに替えるようにすべきです。

アcantアメーバ感染の注意

アcantアメーバ角膜炎にかかると非常に痛みを生じた治療もながびき、患者の15%は重篤な視力障害に至ります。英国でのアcantアメーバ角膜炎の調査によれば、4年間に243名の発症があり93%がコンタクトレンズ装着者でした(ソフトコンタクトレンズ装着者は84%)。また土壌、埃、各種の水との接触、レンズの使用およびケアについて質問調査を行い危険要因を同定していますが、ソフトコンタクトレンズ装用患者の34%がスイミングないしウォータースポーツの際の装着が発症の原因でした(塩素消毒された水25%、湖や川など7%、海水12%、重複回答)。

参考

1. Brown他 CLAO J '97
2. 板垣他 日コレ誌補遺 '95
3. Radford他 Br J Ophthalmol '98